

# Chord Tone Arpeggio Basic Training vol.03

## 確実に覚えておきたい、コードトーン・アルペジオの話 ～X7、6弦ルート5種のパターン～

今回から、X7のアルペジオを学んでいきます。今回は6弦ルートの形ですね。

ルートはC音に設定し、C7で弾いていきます。

ドミナント7thコードなので、インターバルは、root、M3rd、P5th、 $\flat$ 7th(m7th)の順(下降は逆)で音が並んでいることになりますね。

前回までのXM7とは7度が半音違いますので、特に、その違いが指板上でどのように反映されるのか？を把握しておきましょう。

それではまずは、ルート音からヘッド側に進むパターンですね。

### 譜例1、C7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その1

XM7の時(ヘッド側に進むパターン)と違って、左手が4フレットの間でおさまりますね。

動画でもやっているように、1オクターブごとに分割するパターンも弾いてみてください。

続いて、ルート音から真下に降りる見方です。

### 譜例2、C7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その2

巷では、これが一番、6弦ルートでのドミナント7th(X7)コードの代表的なアルペジオとして紹介されるものかもしれません。

次は譜例2の場所で、4弦にルートを見てスタートし、m7thを1弦の方に見た弾き方です。

### 譜例3、C7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その3

この弾き方をするのは、そこまで多くないと思いますが、テキスト vol.01、譜例2-2のXM7の形と違いを把握しておくこと、コードワークやダブルストップなど、色々なことに応用できます。

### ※テキスト vol.01、CM7、4弦ルートでのアルペジオ

そして4つ目は、X7(C7)のコードヴォイスイングの形に近いものですね。

### 譜例4、C7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その4

これも譜例2と同じく、X7の代表的なアルペジオとして紹介されるものかもしれません。

こちら、テキスト vol.01のXM7の形と見比べて、7度の違いを把握しておきましょう。

では今回最後になるのは、1オクターブずつ、ボディ側に展開するパターンです。

### 譜例 5、C7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その5

The image shows a musical score for guitar. The top staff is a treble clef with a C7 chord symbol above it. The notes are: 20 (F), 21 (G), 22 (A), 23 (Bb), 24 (C). The tablature below shows the fret numbers and fingerings for each string. The fingerings are: 人 (index), 小 (ring), 中 (middle), 人 (index), 薬 (pinky). The tablature is: 8-12, 10, 8-10, 10-14, 12, 11-13, 13-11, 12, 14-10, 10-8, 10, 12-8.

この形は、どちらも比較的使いやすいものになっているかと思います。

4弦 8→10 フレットを人差し指でスライドすると、繋げて弾く事も出来ますね。

どのアルペジオにも言えることですが、実戦の中で使いにくいものは、ある程度把握したら練習の比率を下げるのもあります。

基本的な構造がわかっているれば、後から自分で導き出すことも出来る様になりますので。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼